
エイト・デイズ・ア・ウィーク！！

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エイト・デイズ・ア・ウィーク！！

【Nコード】

N5868M

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

華子、ちよつと早いけど、おめでとう！！！！華子を生んでくれたお母さんに感謝！！

祝・大輔華子が現在認知症もどきの母のおまんこから元気よく「やるわよー！」と飛び出した日記念（ちよつと早いけど）

1・華子の初恋

華子は小学六年生。みんなからは「ミス・ドーナツツ」と呼ばれていた。なぜかといえば、ドーナツのようなわつかをいつも腕につけていたからだ。作者あれの名前忘れた。わつか。とほほほ。なんとこの語彙のなさ。幼稚園児か。くれよんしんちゃんの方が言葉が上手い。

華子は実は初恋というのをただいま体験中。ただ友達には言えない。だって非常に特殊なもの。みんなはアイドルの上島くん最高よねえ、いえいえ肥後さんよ、いえ、ジモンちゃんが一番よ、と言い合ってるなか、華子は、塾の先生に恋していた。パイナップル学園という塾の講師、米田飯太郎である。

しかし、華子は誤算であつた。華子は小さかつたのでロリコンというのを知らなかつた。この飯太郎はむしろロリコンだったのである。華子が「勉強わかんないから先生のアパート行つていい？」と言つたら、飯太郎は興奮してオツケーした。

しかし、この飯太郎、非正規労働者である。低所得。原付の無保険運転がばれ罰金を十万円とられたためアパート代を払うことができずに追い出され、ただいま公園にテントを張つて暮らしていたのだ。電気は近くの電線からかつぱらつてゐる。水は公園の水道を使つてゐる。華子は驚きだ。テントの中、クーラーががんがん。

「えへへへえ。電気代ただだよん。もつともばれたら逮捕だけど」「うはあ。先生ですごーい」

犯罪者だぞ。

「じゃあ勉強の前に飯にしよう」

飯太郎は、テントの外に出て電気コンロにフライパンを乗せ油をしき、肉を焼き始めた。

「すごい。おいしそー」

「えへへへえ。松阪牛のサーロインだよー」

華子は飛び上がった。え。え。え。低所得非正規労働者がいったいなぜ。

「アパート代と光熱費が浮いたからね、やりたい放題さ」

華子と飯太郎は、テント仲間の山さんや田中くんを呼び、地面にブルーシートを敷き、レッツ・ディナー。

夜空が実にきれい。満天の星である。

「おいしいな。華子、松阪初めて」

「オレもだよ」

田中くんが山さんに備え付けのポテトをとられたので怒鳴っていた。華子が田中くんに自分のポテトをわけてあげた。

「華子は優しい子だね」

「華子、じゃがいも嫌いな」

なんと、なんと、実はすでにテントの中には布団とコンドームが用意されていた。犯す気満々。

しかも、当たり前だが山さんと田中くんも何年かセックスしていない。きつと何もしないということはないだろう。

「華子、なんか頭がふらふら」

「くつく。テントで休もう」

「うん」

なんと、華子のオレンジジュースにビールを少し混ぜていたワルな飯太郎。

まさに鬼畜（しかも、でぶ）

華子をテントに入れると押し倒した。

「いやっ先生。なにをするの」

「ぐふふふ。おまんこ。小学生まんこ」

ででーん。

「飯太郎、アウト」

どこからか、アナウンスが聞こえ、テントの中に警官が数人入ってきた。

そして、飯太郎は手錠をかけられた。

「せ、せんせー」

「は、華子ー」

こうして、華子の初恋ははかなく散った。

2・華子、再び

それから月日は流れ、華子は、中学生になっていた。華子はそのころ、援助交際をやりまくっていた。しかも、でぶ限定である。おそらく、飯太郎の幻影を追い求めていたのだろう。

でぶの男子に犯されてるとき、少しでも幸せだ。飯太郎先生のおいがする。

でも、当たり前だが、飯太郎先生じゃない。お小遣いはたくさんくれるけど、なんだかむなし。

そんなとき、華子はすっかりミスをしてしまった。

その日のお相手もやはりでぶだったのだが、なんと。

ででーん。

「華子、アウト」

いきなり、ホテルででぶに手錠をかけられた。

「えええええ。なんでええええ」

「ふふふ。フエイント捜査さ。客にばけて売春を取り締まっていたんだ」

「そんなあ」

「なんか興奮してきたから、やってから警察につれてく」

「ええええええええ」

華子は六回ほど警官にやられて、刑務所に入れられた。

なんと、なんと、なんとということ。

その刑務所は、男女共学の刑務所で、華子はやはりでぶな男子囚人と同じ部屋に住むことになったのだ。

「め、飯太郎先生」

「ええええ。華子。ええええええ」

食事も部屋で二人でとる。

同棲みたい！

ただ鉄格子の中だけど。

「なんかいいのかなあ。あたし、ちよつと今、幸せ」

「うーん。オレも。こんなのありかなあ」

飯太郎は刑務所内にある工場へ行った。華子は畑へ行った。

3・華子、ついに二十歳になる

華子は刑務所を一年くらいで出ることができた。真面目に働いたからだ。

しかし、飯太郎は出られない。同じ工場で働く女子高校生の囚人と倉庫でエッチしてるのがばれたのだ。

「華子。オレのこと忘れるなよな」

「知らない！この浮気者！」

そんなこんなで、一年ブランクはあったが、もともと華子は頭がよかったので、高校受験も成功し、大学受験も成功した。飯太郎とはメール交換していた。

いつの間にか、19歳になっていた。しかも、まもなく二十歳。壁時計を見る。

「ああ。もうあと数分であたし大人だね。もう未成年じゃないから、ロリコンの飯太郎先生に好かれることはないわね」
突然、メールの着信音。

「なに？ あ。飯太郎先生からだ。なにになに」

送信者・米田飯太郎

件名・華子、誕生日おめでとう

華子、もうすぐ二十歳だね。残念ながら先生はロリコンなのでもう華子のことを愛せません。だから、華子とはもうメールをやめます。華子がセーラー服を着てもそういうプレイはできません。先生は生粋のロリコンなのです。えっへん。すごいだろう。

「そんなあ」

華子は涙が出そうである。時間よとまれと思った。

「てか、そんなのえばるなバカ」

さらにメールは続く。

でも、華子。オレ、華子と結婚してもいいよ。

「ええええええ。どういうこと。ロリコンなんでしょ！」

華子と偽装結婚して養子をとろう。今度はその子を愛します。骨の髄まで。うぐふふふふ。

「うわ！危険思想！」

華子と思う。ところで飯太郎先生今どこからメールしてんのかなと思う。飯太郎先生は一年前やっと刑務所を出たと言っていた。ラー

メン屋でがんばってるらしい。

あと、二分で二十歳になる。

華子にあわててメール送信した。

送信者・華子

件名・どこ！どこなの！

飯太郎先生！今いったどこにいるの！今ならまだセックスチャンスよ！今なら未成年のあたしを犯すことができるわ！どこなの！どこにいるの！飯太郎先生！！！！

そのとき、華子の部屋の窓からガシャーーンという音がした。

「えへへへえええ。珍珍軒でーっす」

そこには金属バット（それで窓を割ったのか）とラーメン屋の出前箱を持った白衣姿の飯太郎がいた。

「飯太郎先生！」

「ラーメンお届けに来ましたあ」

「バカ！バカ！」

華子は飯太郎の胸に飛び込んだ。

あと、一分で二十歳。

「あたし、むちゃくちゃさびしかったのよ！飯太郎のバカ！バカ！」

「おっと。華子。こうしちゃおれない。あとどれくらいで二十歳だ」

「えーっと、あと五十秒」

「やばい。セックスできない」

「うそー」

華子と飯太郎はわちゃわちゃした。

「コンドームどこや」

「ええと、タンスタンス」

あと、三十秒で二十歳。

「あつた！」

「よっしゃ。放り投げる」

「はい！先生」

華子が放り投げたコンドームをマッハで装着する飯太郎。

「いよいよ飯太郎先生と結ばれる」

「任せておけ。オレは五秒で射精する自信がある。えっへん。天才
射精師さ」

「ただのソーローおじさんじゃない！えばらないで、早くきて！」
「ようし」

あと十秒で二十歳。

ででーーーーーん。

「飯太郎、アウト」

窓から警官がどたと数人入ってきた。

「飯太郎、住居不法侵入罪現行犯で逮捕する」

飯太郎はちんこ丸出しのまま、手錠をかけられた。

「そんなあ」

「ひどーい」

パトカーを見送りながら、華子は「もうだめだ。もう飯太郎先生とセックスできない。おばさんになってしまったもの」と思い、憂鬱になってきた。ぴちぴちの肌なのにおばはん気分。飯太郎のロリコン精神の犠牲者だ。かわいそうな華子。

4・華子、再びメールをもらう

数ヶ月後、華子が大学で講義を受けてるとき、刑務所からメールがきた。

華子は教授にトイレへ行ってきますと言い、廊下に出た。

送信者・ごはんライス

「え。誰。それ。ごはんライス?? 何モノ?? あ。アドレスは飯太郎先生ね。どういうこと?」

件名・エイト・デイズ・ア・ウィーク

華子、オレ、刑務所でPC借りて今無料投稿サイト「小説家になるう」で小説を書いてます。ケータイからも閲覧できるので見てください。ごはんライスというのはオレのペンネーム。華子ともうセックスができないので、小説の世界で、小学生のころの華子とセックスしてます。看守さんと囚人の間でも大人気です。今「エイト・デイズ・ア・ウィーク!!!」というのを連載してます。華子との思い出をつづったものです。

華子、一週間に八日、愛してるよ。飯太郎改めごはんライス。

「八日は無理でしょ!」

華子はケータイに向かってツツコミながらも、にやにやが止まらなかった。走って教室に戻った。

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5868m/>

エイト・デイズ・ア・ウィーク！！

2010年10月15日21時41分発行